

あとがき

過去、大小のプロジェクトが数限りなく計画され、たくさんの人が参加し、実施されてきました。そこには人々のエネルギーが集まり、世の中を変えて来ました。それらのプロジェクトのうちのいくつかは歴史的遺産や文化的遺産となり、今でも私たちの身近に存在しています。

この冊子は公立の中高一貫教育校としては日本初の国際バカロレア※10(以下IB)の認定校である市立札幌開成中等教育学校の評価の実例をもとに生まれました。特にIBプログラムにおける【パーソナルプロジェクト】をとりあげました。パーソナルプロジェクトは『結果を評価する』のではなく『過程を評価する』仕組みを持った特徴的な教育プログラムです。

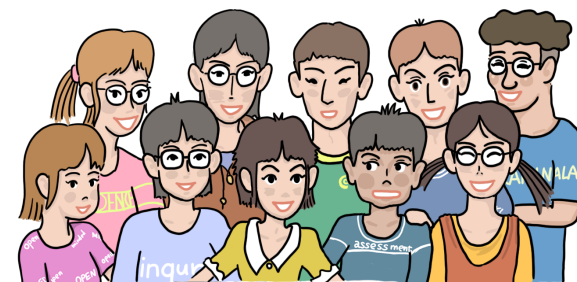
『結果に光が当てられる』今までの社会の評価規準ではなく『過程だけを取り出して評価すること』で、プロジェクト遂行の過程に必要なそれぞれのスキルを明確にします。生徒たちは、そのスキルの1つ1つに焦点を当て集中的にトレーニングすることで必要なスキルを論理的、科学的、しかも経験的に理解し、個々に応じた力を獲得していきます。そして、さまざまなプロジェクトでそれらの多様な力を発揮できるようになるのです。

弓道に『正射必中』という言葉があります。正しく(心技体=正しい心で正しい姿勢で正しい鍛え方で)矢を射れば、必ず的に当たる(結果はあとから付いてくる)という意味です。つまり、成果に気を取られるのではなく「正しく矢を射る」という過程に集中しなさい」ということのようにです。

4-5頁に示したようにパーソナルプロジェクトにおける評価と成長の仕組みはまさに生徒の未来を創るためのものであり、パーソナルプロジェクトの過程を通じて身につけたスキルは生徒たちの生きる豊かな未来を創る強力な武器となるのです。

粘り強く、誠実で、科学的で、客観的で、論理的、そして冒険に満ちた勇気あるプロジェクトが世界を平和で幸せな未来に導きます。

この冊子を使って生徒たちが、自らの成長する過程を意義あるものと意識し、価値のあるプロジェクトを実行する力を身につけ、現実の世界を調和のとれた豊かな未来へと動かしていくように願っています。



【言葉の説明】

- ※1 ルーブリック = Rubric : 評価規準である学習の目標に対する到達度を段階的に表などで示している基準。学習者、評価者が常に共有し参照する。
- ※2 形成的評価 = Formative Assessment : 単元における学習者の知識やスキルの状態を示すもので、学習者と評価者が常に共有すべきもの。学習者自身の自己評価もこれに含まれる。
- ※3 総括的評価 = Summative Assessment : 学習の単元を通して学習者が身に付けたスキルや知識を含めた成長の表記で評価要素を積み重ねたもの。
- ※4 パーソナルプロジェクト = Personal Project = PP : 学習を通して培った学習のスキルや知識を活用して取り組む IB の MYP(中等教育プログラム = Middle Years Programme)の集大成としてのプロジェクト。
- ※5 Outcome = 成果物 = アウトカム : 学習の成果を示す作品、レポート、プレゼンテーションなどを指す。
- ※6 プロセスジャーナル = Process Journal : 学習の過程で考えたことや気づいたこと、調査したことを記録するもの。日記、感想、自己評価、マインドマップ、思いついたものなどが含まれる。
- ※7 宣誓書 : レポートなどの Outcome が自身のものであり、参考文献や引用元などを所定の書式で示していることを宣言する文。
- ※8 エビデンス = Evidence = 証拠 : ものごとの成り立ちの根拠になる記録。いつだれがどのようになど具体的明示が必要。
- ※9 ATL = Approaches to Learning : 学び方を身につけるための 10 のスキルが 5 つのカテゴリーに分類されている。コミュニケーション / コミュニケーションスキル - 社会性 / 協働スキル - 自己管理 / 整理整頓 (時間と作業を有機的に管理 = Organization) するスキル・情動スキル・振り返り = Reflection スキル・リサーチ / 情報リテラシースキル・メディアリテラシースキル - 思考 / 批判的思考 = Critical Thinking スキル・創造的思考スキル・転移 = Transfer スキル。IB の教育課程で身につけて欲しい各種のスキル。
- ※10 国際バカロレア = IB = International Baccalaureate
- ※: グループワークについては『教室で使えるグループワーク』(2017 年発行)
レポート作成については『教室で使えるレポート作成』(2019 年発行) を合わせて参照して下さい。